

△スピロペント錠・▼顆粒 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】 クレンブテロール塩酸塩 clenbuterol hydrochloride 【分類】 持続性気管支拡張剤・腹圧性尿失禁治療剤

【単位】 $\Delta 10\mu\text{g}$ 錠, ▼顆粒 2%

【常用量】 ■呼吸器: $40\mu\text{g}$ /日 ■腹圧性尿失禁: $40\mu\text{g}$ /日

【用法】 ■呼吸器: 1日2回朝・寝る前 ■腹圧性尿失禁: 1日2回朝・夕

【透析患者への投与方法】 設定されていない (1) が, 少量より開始し50%を目安に減量 (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 $\text{Ccr}>50\text{mL}/\text{min}$: 減量の必要なし, $\text{Ccr}10\sim 50\text{mL}/\text{min}$: 少量より投与, $\text{Ccr}<10\text{mL}/\text{min}$: 50%を目安に減量 (5) 【その他の報告】 設定されていない (1)

【特徴】 体内で代謝を受けず 12~15 時間の気管支拡張効果がある. アレルギー性メディエーター遊離に対しても抑制作用を示し, 気道浄化作用でも優れている. 膀胱平滑筋を弛緩し, 膀胱内圧を低下し, 外尿道括約筋を収縮することにより腹圧性尿失禁にも用いられる.

【主な副作用・毒性】 血清カリウムの低下, 動悸, 末梢血管拡張, 振戦, 頭痛, 発汗, 嘔気, 発疹, 掻痒, 食欲不振, 腹痛, 口渇など

【吸収】 ほぼ 100% (1)

【F】 不明 (1)

【tmax】 2.5hr (J Pharmacobiodyn 8: 385-91,1985)

【代謝】 代謝を受けにくい (1) 側鎖の酸化およびグルクロン酸抱合体が尿中に認められている (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率約 20% (J Pharmacobiodyn 8: 385-91,1985) 18~22% [po, 72hr まで] (1) 尿中回収率 87% [po, 168hr まで] (1)

【t1/2】 35hr (J Pharmacobiodyn 8: 385-391,1985) 定常状態に達するまでに 4 日かかるため, 初回負荷量を $40\mu\text{g}$ とし, 維持投与量を 1 回 $20\mu\text{g}$ とすると, より急速に定常状態の濃度に近づく (Z Geburtshilfe Perinatol 192: 158-162,1988)

【蛋白結合率】 89~98% (J Pharmacobiodyn 8: 385-91, 1985)

【MW】 313.65

【透析性】 蛋白結合率が高いため透析では除去されにくいと思われる (5)

【TDM のポイント】 TDM の対象にならない 【薬物動態】 $20\sim 40\mu\text{g}$ 服用で血漿濃度は Cmax が低く, その後の血漿濃度も $0.1\sim 0.2\text{ng}/\text{mL}$ と変動が少ない. そのため振戦が発生しにくいと考えられている. 定常状態に達するまでに 4 日かかるため, 初回負荷量を $40\mu\text{g}$ とし, 維持投与量を 1 回 $20\mu\text{g}$ とすると, より急速に定常状態の濃度に近づく (Z Geburtshilfe Perinatol 192: 158-162,1988) 【O/W 係数】 1.4 (クロロホルム系/pH7) (1) 【pKa】 9.34 (1)

【更新日】 20180419

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません. 本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします. 最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください.

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます. すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています.